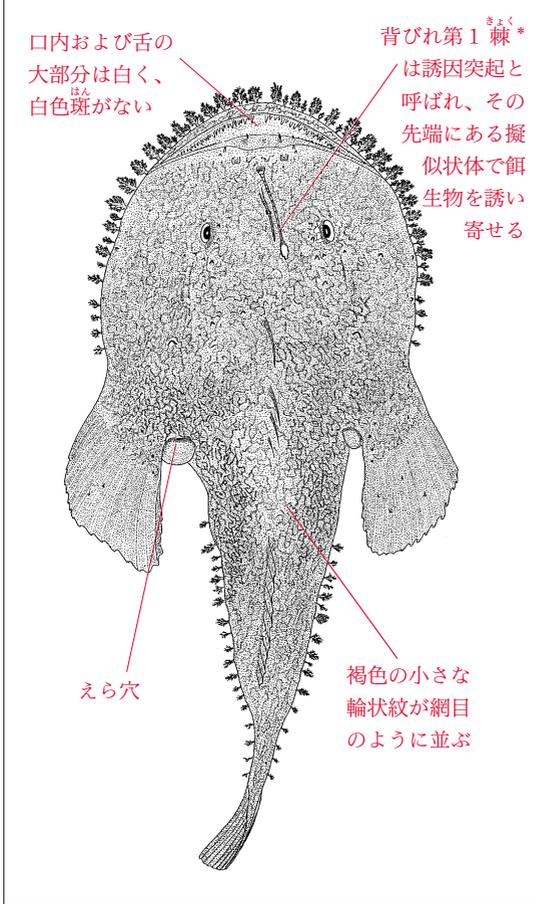


— アンコウ目 Lophiiformes アンコウ科 Lophiidae



口内および舌の
大部分は白く、
白色斑がない

背びれ第1棘*
は誘因突起と
呼ばれ、その
先端にある擬
似状体で餌
生物を誘い
寄せる

えら穴

褐色の小さな
輪状紋が網目
のように並ぶ

34. キアンコウ

*Lophius
litulon* (Jordan)

図版14

英名 fishing-frog,
yellow goosefish

露名 Дальневосточный
Удильщик

地方名(北海道) アンコウ、ホンアンコウ

漢字 きあんこう
黄鮫鱈

アイヌ語名 ペライチェブ、
アプニコルチェブ

【形態】 頭は縦扁*して幅広く、口は大きく裂け、下あごは上あごより前方に突き出る。胴から尾にかけては細長く、その長さは吻*端からえら穴までよりも長い。えら穴は胸びれの付け根にひらく。皮膚は滑らかでう

ろこはなく、下あごや体側には多数の小さな皮弁*がある。体の背面は黄色みを帯びた淡褐色で、褐色の小さな輪状紋が網目のように並ぶ。腹面は白く、褐色斑が散在する。黄色みを帯びた体色からこの名が付いたらしいが、水揚げされた魚体は黒褐色で輪状紋も不鮮明である。両あごの歯は犬歯*状で鋭い。口内および舌の大部分は白い。最大で全長*1.5mになる。

近縁のアンコウ *Lophiomus setigerus* は、体が茶褐色であり、胴および尾はキアンコウに比べ短く、舌の前部が黒いことで区別できる。

【生態】 日本各地から朝鮮半島南岸を経て黄海、東シナ海まで分布する。アンコウが南日本に多いのに対して、キアンコウは北日本に多い。北海道では留萌沖、石狩湾、岩内湾、江差沖などの日本海側に多い。津軽海峡や噴火

湾口付近にも分布するが、オホーツク海やえりも岬以東の太平洋ではごくまれである。水深数十mから500mくらいまでみられるが、多くは底層の水温が5℃以下にならない水深200m以浅の大陸棚*上に生息する。

水温の変化や餌の分布状況、産卵活動に伴って深淺移動を行う。留萌沖では5～7月に最も浅い所に来て濃密に分布し、8～9月には沖合の深みに分散する。仙台湾や新潟沖でも季節的な深淺移動が知られている。

北海道における産卵期は6～7月で、黄海や東シナ海の3～4月、本州南部の3～6月に比べて遅い。性成熟*する最小の体長*は雄で34cm、雌で約60cm。水深100mより浅い所で産卵する。卵の直径は約1.3mm。多数の卵がゼラチン状物質に包まれて産み出され、長さ3～5m、幅25～50cmの薄い帯状になって海中を浮遊する。

産卵後1週間前後でふ化する。ふ化仔魚*は全長約4mm。台湾の例では1歳で体長約20cm、2歳で約40cmに成長する。

主な餌はホッケ、イカナゴなどの魚類、イカ・タコ類である。カイメン*類、ヒトデ類、ウニ類、海藻類なども食う。海鳥を食べていた記録もある。